

CO・OP

京都の生協

2018/January/No. 94
京都府生活協同組合連合会



生協で働く人も学生も、ともに成長できる場としての協同組合
—— 龍大生協の「組合員参加」「職員参加」のとりくみ ——

TalkTalk トークとーく

龍谷大学生生活協同組合 理事長
龍谷大学経営学部 教授
京都府生活協同組合連合会 会長理事

寺島
かみ
上

しま
かけ
掛

かず
とし
利

お
ひろ
夫さん
博

対談

TalkTalk トークとーく

生協で働く人も学生も、ともに成長できる場としての協同組合 ——龍大生協の「組合員参加」「職員参加」のとりくみ——

龍谷大学生活協同組合

理事長／龍谷大学経営学部 教授

京都府生活協同組合連合会 会長理事

(京都府立大学公共政策学部教授)

寺島 和夫
上掛 利博

大学生協には、安く美味しく食べられた食堂、質の良い大学ノート、文庫や新書がびったり収まるスチール書棚、『読書のいずみ』で本が紹介される書籍部にずいぶんお世話になりました。近年は、旅行、運転免許、就職講座といった多様なサービスの提供、ときには学生のフィールドワークの

場にもなるなど、入学から卒業まで、学生生活と大学事業の心強いパートナーとしての存在感を増しています。

龍谷大学生協の寺島和夫理事長が提唱する「日型経営」は、組合員と職員の参加を大切にする生協運営のあり方として興味深いものです。

生協のまわりのこと

上掛 生協とは、どのような形で出会われたのですか。

寺島 学生時代に、組合員

になったのが最初です。その後は龍谷大学に教員として着任してからです。しばらくは一組合員にすぎなかったのですが、たまたま親しくしていただいて先生方が大学生協の要職を務めておられました関係で、2011年度から理事会の仕事させていただ

くことになった次第です。

上掛 大学に来られるまでのお仕事は？

寺島 大阪府立産業能率研

究所（以下、能研）で、商業経営部門への配属になり、中小企業の支援策や地域の商業の育成策づくりに関する診断・指導、調査・研究の仕事をしていました。大学の専攻は、生産や組織の効率的運営について数学的にアプローチ

する経営工学で、コンピュータープログラミングも学びました。能研で商店の方々へのヒアリング調査や統計資料を調べるといった実務を経験するなかで流通とも出会い、経営学・コンピューター・流通の3つの問題を融合するようになったことで問題意識を持つようになりました。

上掛 中小企業診断士の資格をお持ちでしたが、合格率が7〜8%の難しい資格と聞きます。学生時代に取得されたのですか。

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談
生協で働く人も学生も、ともに成長できる
場としての協同組合……………2

八幡市民スポーツ公園・八幡市民体育館を主会場に
京都府総合防災訓練……………7
2017年度京都消費者問題セミナー
「高い解約料・不当な広告などをやめさせました
適格消費者団体の10年」開催……………8
第48回京都消費者大会
「食品ロスと『しまつのこころ得』」開催……………8
ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会
（「ヒバクシャ署名京都の会」）が設立……………9

第17回京都府協同組合役職員体験・交流学校……………9
京都労働者福祉協議会社会貢献活動……………9
●京都エシカルフェア……………11
●京都環境フェスティバル2017……………11

TOPICS

●第29回近畿地区生協・行政合同会議……………10
●京都の生協 理事長懇談会……………10
●京都府生協連 理事・監事研修会……………10
●京都の生協活動功労者表彰式……………10
●食育企画「親子で丹波黒枝豆収穫体験in京丹波町」
開催……………11
●平成29年度第2回きょうと食の安心・安全意見
交換会……………11
●京都エシカル消費推進ネットワーク設立会議……………11

会員生協トップインタビュー VOL.4

同志社生活協同組合……………12
京都府生協連 第25回
「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」……………14
おもな行事のお知らせ……………14
年賀状……………14



龍谷大学生活協同組合 理事長
龍谷大学経営学部 教授
寺島和夫さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授)
上掛利博

寺島 経営工学を学ぶ身として、いずれ取りたいと考えて受験の準備をしていましたが、実際に取得したのは能研に在籍していたときです。東京に

ある中小企業大学の診断士養成講座に派遣していただきました。

同種の資格では唯一の国家資格で、経営全般を見て判断する仕事です。最近ニーズが高まり弁護士や会計士等と並んで人気を集めているようです。

赤字解消は「理想のビジネスづくりのチャンス」 ——参画経営の試み

上掛 理事長に就任された

とき、龍大生協は累積赤字を抱えていて、それを10年で解消するという目標を立てられました。そのさい、経費削減の「コストカッター」としてではなく「理想のビジネスづくりのチャンス」と受けとめられたそうですね。

寺島 はい。最初は赤字解消が最大の使命だという意識で理事長を引き受けたのですが、たずさわるうちに、あらためて大学生協のミッションは学生・職員・大学への貢献であって、収益向上ではないということ意識するようになったことができました。つまり、生協は、生きがいを持って働くことができる職場をつくり、学生を中心とした組合員のよりよい生活を実現していくという理念を純粋に追求している組織であり、収益はその

結果なのです。

グローバル化する経済のもと、強い企業はより強くなり、社会が勝ち組と負け組に分断されるような動きが加速して、これからは社会がますます不安定化していくことも懸念されます。そういう状況下にあって、生協は助け合いでよりよい社会を形成するという理念をベースに活動できる組織ですから、その存在がより重要な意味を持つ。そういう意味で、「理想のビジネスづくりのチャンス」という表現をしました。

といいますのは、大学で経営学を学び始めたとき、大阪府立大学の竹山増次郎先生から「人間性回復の経営」や「参画経営」ということを教えていただきました。これは、当時さかんにおこなわれていたQCサークル活動（小集団

改善活動）を通して、職場の

みんなが問題を解決していき、その成果を発表しあうなかで職場が活性化し、個人も成長していくという考え方で、経営学の楽しさ・魅力との出会いでした。「参画」という言葉についても、まだ一般的でなかった当時において卓越した視点を感じました。これらがわたしの経営学の原点となっています。そして、龍大生協はこの考え方が実践できる場所ではないかと考えるようになったのです。

そのようなことから、「生協職員が成長できる職場づくり」と「顧客満足の追求」ということを、機会あるたびに訴えたところ、正職員・パート職員の皆さん方は本当によくそれに応えてくれました。単に稼ぐためでなく「学生・教職員のために」ということ





を強く意識してくれている人が多くて、本当にありがたかったです。これは大学生協の強みですね。

それとあわせて、事業連合の食材仕入れの一本化により、食堂の収益力が向上しました。職員の意識や行動が進化したことと経営の仕組みの改善によって、予想以上に収益が上がり始めまして、就任7年目の今年度中に赤字を一掃できるめどがたつところまでできました。

龍大生協を

「一人前のサービス業」に

上掛 理事長として「一人

前のサービス業をめざす」という方向性を打ち出されましたが、そういう発想はどこから出てきたのですか。

寺島

大学生協は、学内で営業していて、ビジネスモデルとしては顧客セグメントや立地などで優位性を持つています。それはよい面でもある反面、学外との競合や成長という観点では少し弱いところがあるということ、理事会に入ってみて感じました。

いま、大学はオープン化の流れのなかにありますから、今後はキャンパス内でも、外部の企業と直接的に競合を迫られる時代が到来することが予測されますし、すでに部分的にそのような状況になりつつあります。生協も、サービス業ですから、みずから組合員に高い満足や価値を提供できるような切磋琢磨していかないと将来の生き残りが厳しくなる。それを表現したのが「一人前のサービス業」という言葉です。

上掛 わたしは大学で社会

福祉の考え方を教えています。が、福祉の現場では相手が一人ひとり違うのでマニュアルどおりにはいきません。もちろん、制度や技術はきちんと身につける必要がありますが、対象が人間ですから「一人ひとりに対応できることが大切ですし、それが福祉の仕事のおもしろみでもあります。その点はサービス業と似ている気がします。

寺島

たしかに似ていますね。サービスは人はもちろん、TPO（時・所・場合）によっても、求められるものが変化します。で、本当に多様です。顧客満足の視点からは、サービスの平均的な水準を上げつつ、臨機応変な対応でそのバラツキを抑える必要があります。サービスの水準を上げるためにマニュアルは役立ちますがそれがすべてではありません。

本学にも出店されているスターバックスコーヒーは、高い顧客満足度を誇るお店でありながら、マニュアルがなく、従業員の教育に力点を置いて

いるそうです。やはり働く人の意識や理解がなければ、十分なサービスは成り立たない

働く人の経営参加によって

好循環を生む「白型経営」

上掛

職員の意識を変えるという点で、寺島さんは「参加型経営」という考えをさらに進めて、「白型経営」を提唱されています。これについて教えてください。

寺島

従来の組織は、トップ・中間管理層・現場という階層で構成され、上からの指示で動く、いわゆるピラミッド型が一般的でした。これは、組織として統一された動きをするという点ではいいのですが、そこで働く人たちが主体的に取り組んで、生きがいを持って働くという点では難しい面もあります。言われたこととはするけれども、自主的に判断して動くかたちにはなりにくいからです。

サービス業のように顧客満足を追求する組織では、このような上から指示して人を動かすやり方には限界があり、顧客との接点にいる現場の人間が臨機応変に対応しなければ

のです。龍大生協もその点については大きな資質を持っていると思います。

ばなりません。そこにはマニュアルを超えた部分も多いので、現場が一定の権限を持つことが大事な要素となります。それをやりやすくした経営スタイルがアメリカのノードストローム社に代表される逆ピラミッド型経営です。現場に権限委譲し、中間管理層やトップは働きやすい環境づくりによって現場を支え、現場の自主判断をしやすくするというスタイルを採ります。

ただ、逆ピラミッド型は不安定ですし、「権限委譲」という言葉からは、まだまだ「最終判断を下すのはトップである」という「上から目線」的要素も強いような気がします。



それに、ピラミッド型も逆ピラミッド型経営も、大きな組織が前提になっているような気がします。龍大生協は総勢百数十名のこぢんまりした組織ですから、生協が大切にしている「組合員の参加」だけでなく、働いている人たちも経営に参加してもらうかたちがいいのではないかと。組織のベースになるビジョンや経営計画をつくる段階で、働いている人たちに参加してもらい、「自分たちの意見が反映されている」と感じてもらえたら、ことさら「理念の共有」や「コミュニケーションの強化」を強調しなくても、自然に浸透していくのではないかと考えています。

つまり、生協の現場で働く人たちも経営に積極的に参加してもらうことで、学生組合員は質の高いサービスを受けることができる。学生生活の質が向上し、それが生協で働く職員の喜びと生きがいになって、さらにそれが高度なサービス提供につながる。「参加↓共有（浸透）↓協調↓幸せな職場」の好循環が生まれるのではないかと考えています。それは、ピラミッド型と逆

ピラミッド型を重ねる形で表すことができます。ちょうど餅つきの臼のようなかたちになりますので、「臼型経営」と名付けました。

上掛 なるほど、単なる「権限委譲」ではなく「参加」がカギになるのですね。そういえば、臼の形は、お餅つきを連想して、なにか幸せな雰囲気がありますし、形そのものに安定感があります。

寺島 ありがとうございます（笑）。ただ、それだけで経営問題が解決するのではなくて、やはり職員のマネジメント能力がもう一つのカギになると思っています。つまり、パート職員を中心とした現場の力を、各店舗の店長やマネジャーがどこまで引き出せるかですね。

われわれ経営層も、職員の声をつねに聴き、現場で何が起きているのかを把握し、頑張りに対しては評価をして、報償で応える必要があります。経営層の課題もあれば、中間管理層のマネジメント能力の問題もある。そういうなかで、現場の人たちが主体的に働けるような仕組みをうまく回していくのが臼型経営だろうと考えています。

学生が体験・成長する場としての大学生協

上掛 寺島さんは、ご自身のゼミで、龍大生協をフィールドにした調査実習を学生たちとなさっていますね。

寺島 はい。わたしのゼミでは、「小売業・サービス業における顧客満足」をテーマにしています。当初は外部企業に調査協力を依頼して、ゼミ生が店頭で調査し、そのデータを分析して改善提案をしていたのですが、ふだん学生が利用するお店ではないの

で距離感があり、現実をふまえた提案には難しい面がありました。それで、わたしが生協の理事会に入ったのを機に、調査対象を龍大生協の店舗に切り換えました。

そうすると、学生にとっては、生協はふだん使っているお店なので、一利用者として感じていることも多く、データの収集・分析や問題の発見、改善提案などをするこの意味もより強く感じられたのでしょう。彼らは、週1回のゼミだけでなく、自主的に研究会を開くなどして懸命に取り組む始め、発表のレベルも格段にアップするようになりました。学内外で発表を重ねて、賞をいただくことも増えましたし、生協職員の前でプレゼンテーションをすることもあります。

分のものにならないし、まして社会人としての基礎的な力も身につかないのではないのでしょうか。そういう体験の場としてみると、生協はじつに大きな役割を果たせるということを実感しています。また、そのような場をもっと広げていけると思っています。

上掛 大学生協が大学のパートナーとして存在するからこそ、専門の学びという点においてもそのような貢献ができるのでしょうか。

寺島 そうですね。生協は、組合員が「参加して、経験を積んで、成長していくことを支援する」という使命を持っています。とくに大学生協は、大学生活と大学への貢献という使命もあります。たとえば、学生の知的生産を支援するために、あらためて読書にも目を向けて、みずから読み、咀嚼し、思考するという体験に学生を誘うような取り組みも進めていきたいと考えています。それこそ、まさに大学生協ならではのサポートではないかと思えますね。

わたし自身、実社会も見てきましたので、学生には社会人基礎力を身につけさせたいと常々思っていました。これは大学で知識を得るだけではなく身につけません。経験をとおして納得しないと、知識は自



学生の主体的に取り組む力を引き出すのも、 大学生協の大切な役割

上掛 協同組合そのものについては、どのようにお考えでしょうか。

寺島 わたしは龍大生協における限られた経験しかありませんので、うまく答えられるか心許ないですが、やはり社会や地域への貢献という理念がありますし、とくに消費者の組織である生協は、組合員が運営者でもあり、社会の仕組みそのものを体験できる場でもあります。そのため、今後はより存在感を高めてい

けるし、またそうあらねばならないと思います。

上掛 本来、協同組合の運営のあり方として、「参加」をなによりも大切する組織という側面があります。

寺島 そうですね。「参加」は生協活動の基本であると同時に、その重要性が高まってきています。ただ、いかに組合員に参加してもらうかは、大切なだけに非常に難しい課題ですね。龍大生協でも、学生委員会や学生理事の立場を通して参加してもらったり、イベントを通じて一般学生にも参加してもらう機会を増やしています。ただ、まだまだ十分だと思っています。

たとえば理事会の運営についてみますと、専務が事業実績や計画について資料を準備・提案し、異議なく承認されることが多いわけです。しかし、学生理事が経営数字を読みこなす力をつけることで、議論をより活発にすることができると考えますし、何より社会的基礎力につな

がっていくことが期待されます。

それから、学生1人あたりの年間利用回数も重要な指標で、この指標を見ると供給高からは見えない部分が明らかになってきます。ちなみに、

龍大生協の年間利用回数は約100回ですから、だいたい2日に1回の利用だということとわかります。これを毎日来店してもらえようにするには、どうすればいいのか。こうした思考方法を積み重ねていけば、他人事ではなく自分事として生協運営を考えら

れるようになるはずですが。

学生委員会の活動も、これまでの活動の踏襲ではなく、自分たちはどう考えてその企画をおこない、その結果、どうだったのかということを、自分たちの言葉でしっかり報告することを意識的に求めていますし、今後も力を入れていきたい。

このような活動を通して、学生から主体的に取り組む姿勢を引き出し、その成長を支援することは、これから大学生協が特に力を入れていくべき部分だと思っています。

上掛 学生組合員が「主人公になる」ということは、自分の頭で考えることであり、そのためには「数字を読み解く力」も必要で、理事会や学生委員会が学生にそうした成長を促す場にもなっている。そこに参加することで学生が育っていくと素晴らしいですね。あらためて「人間の成長の場としての協同組合」について、あるいは組合員が主人公になることの具体的な中身について考えさせられる興味深いお話をうかがいました。ありがとうございます。

(写真撮影・有田知行)

プロフィール 寺島 和夫 (てらしま かずお)

授業では、主に経営情報の活用、プログラミングやデータ分析等の科目を担当しています。ゼミでは、「小売業・サービス業における顧客満足」をテーマに、大学生協等と連携しながら統計やデータベースを通して問題の発見から解決までの実践力の育成に取り組んでいます。

【現職】 龍谷大学経営学部教授、龍谷大学生協同組合理事長

【略歴】 1953年 京都生まれ、大阪工業大学大学院工学研究科修士課程経営工学専攻修了、大阪府立産業能率研究所研究員、大阪短期大学助教授を経て現職。

【専門】 経営情報、小売マーケティング

【論文】 「計量的分析による商品分類に関する研究」(共著、日本経営工学会誌、1994年)、「小売ミックスにおける因果構造に関する実証的研究」(共著、日本経営工学会論文誌、1999年)。

「小売市場活性化のためのビジネス・モデルに関する研究」(単著、龍谷大学経営学論集、2006年)、「中小食品スーパーにおけるサービスクオリティと顧客満足の因果関係に関する研究」(単著、龍谷大学経営学論集、2007～2009年)、「経営学部における初期情報教育への試みと検証」(共著、龍谷大学経営学論集、2012～2015年)、「ネットスーパーの動向と中小食品スーパーの対応に関する研究」(単著、龍谷大学社会科学年報、2016年) 他。

【著書】 「マーケティング・ゲーム」(共著、日刊工業新聞社、1987年)、『経営情報処理概論』(共著、同文館、1996年)、『情報化と地域商業』(共著、千倉書房、1997年)、『Excelによる経営データの分析と活用』(共著、同文館、2003年) 他。

【趣味】 尺八(都山流準師範、龍谷大学邦楽部部長)



八幡市民スポーツ公園・八幡市民体育館を主会場に

京都府総合防災訓練

2017年9月3日(日)、

八幡市民スポーツ公園・八幡市民体育館を主会場に開催されました。局地的豪雨による水害と地震による土砂災害の発生を想定して、住民避難や救援物資の輸送、避難所開設の訓練をおこなうことで、府

民の防災意識の高揚を図り、被害の減少につなげることを目的として開催。八幡市民スポーツ公園の他に、京田辺市、宇治田原町等でもおこなわれました。

連は、8時に京都生協洛南支部で高取淳専務理事を本部長に災害対策本部を立ち上げ、京都府から要請のあった救援物資等の必要資材を配送トラックに積み込んで、訓練会場にむかいました。

京都府生協連は、京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書(1997年締結)」にもとづき、京都のJAグループとともに物資の輸送・配布訓練に参加しました。

地震発生を受け京都府生協

生協からは京都府生協連・



救援物資の輸送訓練



J A 京都グループと一緒に

大規模災害時における応援・受援にかかる活動内容や手順の確認と課題の抽出をおこな

2017年9月22日(金)、
「関西災害時物資供給協議会」が設立されました。協議会には、京都府生協連も参画しています。

関西広域連合のもと、大規模災害時の実効性のある物資供給の実現に取り組もうとする行政機関や民間団体、事業者等による連携・協力組織として2017年1月12日(木)

うとともに、防災関係機関との連携強化等を図ることを目的に、関西災害時物資協議会を構成する団体による、関西広域応援訓練(図上訓練)が、兵庫県災害対策センターで開催されました。当日は、緊急物資円滑供給システムチェックリストにもとづき、ロールプレイング方式による「状況付与型図上訓練」がおこなわれました。京都府生協連から、酒向直之事務局長が参加しました。



図上訓練に参加する酒向直之事務局長

の地震が発生したものと想定。日本生協連関西地連(大阪)⇓京都府生協連⇓会員生協(京都生協・全国大学生協関西北陸ブロック京滋奈良エリア)間でおこなわれました。発災時に非常用通信機器として設置しているMCA無線が正常に稼働できるようになっているか(送受信の電波状態・機器の不具合の有無など)について検証しました。

訓練は年5回開催しています。

2018年1月19日(金)には、京都府生協連会員生協による相互連絡防災通信訓練を予定しています。

災害ボランティア活動を支援するための募金に寄付

京都府生協連は、2017年7月に発生した、九州北部豪雨災害に関するボランティア活動を支援するために、京都府災害ボランティアセンターが呼びかけた、「ボランティア活動サポート募金」に3万円を寄付しました。

MCA無線(防災無線)訓練を実施

2017年8月29日(火)、11月28日(火)に、震度6強

2017年度京都消費者問題セミナー 「高い解約料・不当な広告などをやめさせました」 適格消費者団体の10年」開催

2017年10月3日（火）、
京都府立総合社会福祉会館ハ
ートピア京都で開催され、50
人が参加しました。



KC's・片山登志子副理事長
（弁護士）

消費者被害の事例と対策に
ついて広く啓発し、適格消費
者団体の認知をはかることを
目的に毎年開催しており今年
は11回目。京都府くらしの安
心・安全推進月間事業として
実施し、主催は、京都府、N
PO法人コンシューマーズ京
都、適格消費者団体NPO法
人京都消費者契約ネットワーク
（KCCN）、適格消費者団体・
特定適格消費者団体NPO法
人消費者支援機構関西（KC
s）、京都生協、京都府生協連
で、京都市の後援。

つづいて京都府消費生活安
全センター・三室久枝消費生
活相談員より平成28年度の京
都府の消費生活相談の概要に
ついて報告があり、KCCN・



京都府消費生活安全センター・
三室久枝消費生活相談員

団体の実績と成果について、
お話いただきました。消費者
が他人事ではなく我が事とし
て声を上げて行動することが
大切だと強調されました。

当な広告などをやめさせまし
た。適格消費者団体の10年
消費者が行動することで安心
してくらせる社会を築こう」
と題して、KC's・片山登志
子副理事長（弁護士）による
講演がありました。平成19年
6月から消費者団体訴訟制度
がスタートして10年が経過し
た現在、消費者被害救済や未
然防止はどのようにすすんだ
のか、制度を担う適格消費者
団体の実績と成果について、



KCCN・森貞涼介事務局（弁護士）

森貞涼介事務局（弁護士）と、
KC's・五條操差止請求検討
委員長（弁護士）からそれぞ
れ適格消費者団体の活動報告
がありました。

KC's・あざみ祥子理事が
閉会あいさつをおこない、京
都府生協連・高取淳専務理事
が司会をつとめました。

参加者からは「消費者が声
を上げていくことが大事だと
わかった」「適格消費者団体
の10年間の歩みや成果につ
いて聞き、被害防止のために尽
力されてきたことがわかった」
などの感想が寄せられました。



KC's・五條操差止請求検討
委員長（弁護士）

第48回京都消費者大会 「食品ロスと『しまつのこ る得』」開催

2017年9月28日（木）、
京都府立総合社会福祉会館ハ
ートピア京都にて3部構成で
開催され、1部76人、2部97
人、3部86人、のべ259人
が参加しました。主催は当会
が加盟しているNPO法人コ
ンシューマーズ京都で、農林
水産省近畿農政局、京都府、
京都市、京都府生協連が後援。



料理研究家・力石さち氏

第1部エコクッキング講演
会「大切ないのち、食材を使
い切る術を学ぼう」では、料
理研究家・力石さち氏が、捨
てない料理法、堆肥の作り方
等、家庭でもできる食品ロス
について講演。第2部「食品
ロスを家庭から考えるフォー
ラム」では、京都大学地球環
境学堂・浅利美鈴准教授より
基調報告をいただいたあと、
福井県安全環境部循環社会推
進課・大石光紀氏、京都市循

環型社会推進部ごみ減量推進
課・小野利恵2R推進係長、
NPO法人セカンドハーベス
ト京都・向山文章理事、公益
財団法人京都市環境保全活動
推進協会・谷内田友寛氏より
それぞれ事例報告がありまし
た。最後はNPO法人コンシ
ューマーズ京都・有地淑羽理
事による食品ロス市民アンケ
ート結果の報告がありました。



京都大学地球環境学堂・
浅利美鈴准教授

第3部では、捨てられている
食料を救いだし、おいしい料
理に変身させようと考えた食
材救出人を描いたエンターテ
イメント・ロードムービー「0
円キッチン」が上映されました。
会場では、NPO法人セカ
ンドハーベスト京都によるフ
ードドライブ（※）の社会実
験を実施、参加者が家庭に眠
っている食品を持ち寄りました。

※フードドライブとは、各家庭で使い切れ
ない食べ物を学校や職場に持ち寄り、それ
らをまとめて地域の福祉団体や施設、フ
ードバンクなどに寄付する活動。海外では
1960年代から盛んにおこなわれている
とされている。

ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会 （「ヒバクシャ署名京都の会」）が設立

2017年7月15日（土）、
コープ御所南ビル会議室で、
19団体50人が参加し設立総会
を開催。「ヒバクシャ署名京都
の会」は、日本原水爆被害者
団体協議会（以下、日本被団
協）が呼びかけた「ヒロシマ・
ナガサキの被爆者が訴える核
兵器廃絶国際署名（ヒバクシ
ヤ国際署名）」を京都で推進
することを目的に、京都原水
爆被災者懇談会・京都「被爆
2世・3世の会」・原水爆禁止
京都協議会・京都府生協連の
代表者4人がよびかけたもの。
設立総会では、日本被団協・
木戸季市事務局長による「核
兵器禁止条約の成立と被爆者
としての想い」と題して記念
講演がありました。



（左から）原水爆禁止京都協議会・渡邊賢治代表
理事、日本被団協・木戸季市事務局長、京都
原水爆被災者懇談会・花垣ルミ代表世話人



日本被団協・
藤森俊希事務局次長

9月9日（土）には、日本
被団協・藤森俊希事務局次長
による学習講演会「核兵器禁
止条約を力にヒバクシャ国際
署名を大きくひろげる講演会」
を京都府中小企業会館で開催
し、40人が参加しました。



阪急西院駅前で「署名をお願いします」

第17回京都府協同組合 役職員体験・交流学校

2017年9月13日（水）
（14日（木））に開催され、31
人が参加しました。

主催は京都府協同組合連絡
協議会で、京都府の協同組合
（農協、漁協、森林組合、生協）
に働く役職員の教育と育成を
目的とし、研修・体験交流を
通して京都の協同組合の連携、
課題を学び、認識を深め合う
目的で、毎年開催。



京都府漁業協同組合・
武田康司参事

今年は、京都府漁業協同組
合が企画を担当し、「京都の
水産業に学ぶ」をテーマに開催。
一日目は京都府水産会館（京
都府漁業協同組合本所）で開
校。京都府漁業協同組合・武
田康司参事が開校のあいさつ、
同・飯尾光博係長より研修内
容のオリエンテーションがあ
りました。会場を舞鶴かまぼ
こ協同組合内「かまぼこ工房」
に移し、舞鶴かまぼこ協同組
合・辻義雄参事の指導による、
ちくわ、かまぼこ、てんぷら

作りを体験。京都府農林水産
技術センター海洋センターで
は戸嶋孝研究部長より「海洋
センターにおける試験研究に
ついて」についての講義があ
りました。

二日目は、京都府漁業協同
組合・山口俊一宮津支所長の
案内で宮津地方卸売市場・施
設見学、同・飯尾光博係長が
「京都の漁業」について講義
をおこないました。二日間の
体験・交流学校をとおして、
京都の水産業の現状や課題、
果たしている役割について学
びました。参加者からは、「体
験・交流学校で学んだ知識を
業務にいかし、京都の協同組
合の連携を大事にして仕事に
励みたい」などの感想が寄せ
られました。



宮津地方卸売市場で記念撮影

京都労働者福祉協議会 社会貢献活動



モモの箱詰め作業

京都府生協連も会員となっ
ている京都労働者福祉協議会
は、社会的役割を果たす活動
として、2017年8月19日
（土）（21日（月））、東日本大
震災と福島第一原子力発電所
事故により大きな被害を受け
た宮城県、福島県への視察と
ボランティア活動を実施しま
した。

一日目は、震災遺構として
保存されている仙台市立荒浜
小学校訪問の後、福島市内へ
移動し、環境省と福島県が運
営する環境再生プラザ、福島
医療生協・わたり病院を訪問。
二日目は、JAふくしま未来
でモモの箱詰め作業のボラン
ティア活動を実施。三日目は、
飯館村、南相馬市、浪江町等
の被災地を視察。18団体31人
が参加しました。京都府生協
連から、酒向直之事務局長が
参加しました。

第29回近畿地区生協・
行政合同会議近畿地区生協府県連協議会・
木田克也代表

2017年8月30日(水)、
シティプラザ大阪で、「安心
してくらせる地域社会づくり
をめざして」をテーマに開催。
主催は、近畿地区生協府県
連協議会。

大阪府生協連・中村夏美専
務理事が司会を担当、近畿地
区生協府県連協議会・木田克
也代表(兵庫県生協連会長理
事)、大阪府府民文化部・岡
本圭司部長が、開会にあたっ
てのあいさつをのべました。
厚生労働省社会・援護局地域
福祉課消費生活協同組合業務
室生協検査官・登内晋司氏か
ら、あいさつがありました。
つづいて、日本生協連渉外広
報本部・伊藤治郎部長から、

KC's・片山登志子副理事長
(弁護士)

全国の生協の事業・活動を通
じた社会的取組みなどについ
て紹介がありました。

特別講演では、適格消費者
団体・特定適格消費者団体N
PO法人消費者支援機構関西
(KC's)・片山登志子副理事
長(弁護士)が、「消費者問題
の現状と課題について考える
(行政と生協への期待)」につ
いて講演がありました。

京都高齢者生協くらしコープ・
石澤春彦専務理事

各府県報告では、京都から
京都高齢者生協くらしコープ・
石澤春彦専務理事が、京都府
が取り組む次世代下宿「京都
ソリデール」事業の委託を受
けて実施している「共住プロ
ジェクト」と、「共同墓・平
和の風」の取組みについて報
告しました。

福井・滋賀・奈良・和歌山・
大阪・兵庫・京都の生協担当
主幹部局、および各生協府県
連の役職員ら45人が出席。
京都府生協連からは、畑忠
男副会長理事、高取淳専務理
事、酒向直之事務局長が出席
しました。

京都府 生協 理事長懇談会

2017年9月6日(水)、
コープ御所南ビル会議室で開
催。高取淳専務理事が司会進
行し、上掛利博会長理事が開
会のあいさつをしました。

龍谷大学経営学部経営学科・
寺島和夫教授(龍谷大学生協
理事長)より「一人前のサー
ビス業をめざして、生協に期
待すること」をテーマに講演
をいただきました。組合員満
足を実現することは、組合員
や組織の成長につながる。理
想のビジネスができる実践の
場が生協であることなど、事
例を交えて講演されました。

その後、各会員生協から
2017年度の活動課題等につ
いて報告があり、意見交流
をおこないました。

京都府生協連・畑忠男副会
長理事が閉会のあいさつをし
ました。9会員生協から理事
長・副理事長・専務理事・常
務理事、19人が出席しました。

京都府生協連
理事・監事研修会

2017年9月26日(火)、
コープ御所南ビル会議室で開
催しました。

生協法改正以降、理事の職

日本生協連総合運営本部法規
会計支援部・宮部好広部長

務と責任が明確にされると共
に、理事、監事の役割がま
ます重視されるようになって
きており、生協法の知識や監
事の権限と職務、監事は理事
の何を監査するのかなど、基
礎的な知識について学ぶこと
を目的に開催しました。

はじめに、京都府府民生活部
消費生活安全センター・濱田
佳史調査・指導担当専門幹か
ら「生協検査における特徴的
な指摘事項や留意点」につい
て報告がありました。

つぎに、日本生協連総合運
営本部法規会計支援部・宮部
好広部長が、「二部構成で講義。
第一部は生協における理事・
監事の職務と責任について。
生協の機関運営や法的ルー
ル、非常勤役員の役割など、
生協の基礎的知識を学びまし
た。第二部は監事監査の基本
と実務のポイントをテーマ
に、生協がおこなう幅広い監
査対象に対しての監事監査な
どを学びました。会員生協の
役職員44人が参加しました。

京都の生協活動功労者表彰式

2017年11月1日(水)
レストラン「おおたや」で開
催。京都府生協連の表彰制度
にもとづき毎年おこなってい
るもので、表彰の対象となっ
た方は、2016年8月1日
から2017年7月31日まで
のあいだに退任した役員の方
で、①役員在任期間が2期以
上または2年以上あった方、
②特別に功労があったと認め
られる方、です。2017年
は各会員生協から18人が推薦
され、表彰されました。上掛
利博会長理事が感謝状を贈り
ました。表彰式に出席された
功労者は8人で、該当する生
協役員が同席しました。



功労者のみなさんと記念写真

食育企画「親子で丹波黒枝豆
収穫体験 in 京丹波町」開催

2017年10月29日(日)、高齢化が進むなか、農地と集落を守ろうと京丹波地区で特産の丹波黒大豆などを栽培している農事組合法人「京丹波はたるの里」を訪れ、生産者の皆さんと交流しました。枝豆のさや取り体験等とおして、食べ物食卓に届くまでの過程を学び、生産者の思いや苦労、自然の恵みの大切さを親子で学ぶことを目的に開催。京都生協、京都府生協連が主催し、京都府が共催しました。親子34人が参加しました。



一株に多くのさやがついてました

し鍋」の昼食をおいしくいただきました。その後、全員で豆つかみ取りリレーゲームをおこないました。京都府と生産者からは、「農薬の安全基準について」「丹波黒枝豆の栽培の流れ」「丹波黒枝豆をおいしく食べる方法」「丹波黒枝豆を通じた地域活性化」などのお話がありました。



採ったさやを塩もみ「おいしくなあれ」

平成29年度第2回きょうと食の安心・安全意見交換会

2017年10月20日(金)、京都府庁2号館農林水産部会議室で「府民、観光客等への食の安全性確保の取組みについて」をテーマに、開催されました。

京都府農林水産部食の安心・安全推進課・伊藤利夫理事が開会のあいさつ。京都府健康福祉部健康対策課・金川由香里主査から「食と健康の環境づくり」、同・勝山久美子副

課長から「食物アレルギーの子京都おこしやすプロジェクト」、京都府農林水産部食の安心・安全推進課・乗秀彩副主査から「食の安心・安全の情報発信について」それぞれ報告があり、意見交換しました。

NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人使い捨て時代を考える会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から、14人が参加しました。

京都エシカル消費推進ネットワーク設立会議

2017年10月6日(金)、ルビノ京都堀川で、消費者団体、事業者団体、行政関係機関等がネットワーク組織を結成し、相互の連携をすすめることで、人や社会・環境に配慮した消費行動であるエシカル消費(倫理的消費)の普及に努め、公正で持続可能な社会の実現を目的として京都エ



消費者庁消費者教育推進室・青山陽子室長

シカル消費推進ネットワークの設立会議が開催されました。関係団体、行政関係機関等25団体32人が出席。

京都府民生活部・磯崎弘規副部長が開会のあいさつ。

来賓として、消費者庁消費者教育・地方協力課消費者教育推進室・青山陽子室長からあいさつがありました。つづいて、株式会社大和総研調査本部主席研究員(消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員)・河川真理子氏から「進化するエシカル消費」生活に浸透するエシカルマインドをどうとらえるか」をテーマに記念講演があり、意見交換をおこないました。京都府生協連から、右近裕子生協活動推進専門委員、酒向直之事務局長が出席しました。(10月6日現在33団体が参加)

京都エシカルフェア

2017年11月12日(日)、KBSホールで開催され、当日は約700人の府民が来場しました。主催は京都府・京都市・京都エシカル消費推進ネットワーク。人や社会・環境・地域に配慮した消費行動をすることで、公正で持続可能な社会づくりを進めていこうとするエシカル消費の考え

方や取組みを広く知らせることを目的に開催され、環境・消費者団体や企業、学生サークル等が出展しました。

京都府生協連では、会員生協である京都生協と生協コープ自然派京都より、それぞれがすすめているエシカル商品の活動について、ブースでの展示やステージでの活動報告をおこないました。



京都環境フェスティバル2017

2017年12月9日(土)10日(日)、京都府総合見本市会館(パルスプラザ)で開催されました。環境について学ぶ参加型イベントとして、1992年から実施されています。会員生協の京都生協や、生協コープ自然派京都、全京都勤労者共済生協(全労済)が、それぞれの環境商品、取組みの紹介や、クイズを出展しました。

同志社生活協同組合

～青木真美理事長に聞く～

（聞き手…京都府生協連合会専務理事・高取淳）

同志社生協は、同志社尋常中学教員安部磯雄先生（※）と学生達により、1898年（明治31年）に創設されてから創業119年を迎えました。「日本における最初の大学生協」と言われています。現在では大学、女子大学、岩倉・香里の中学高等学校で、店舗を展開しています。総代会は学生委員会中心の運営になり、今年度は美出席で成立をすることができました。さまざまな分野での学生委員による活発な活動がこなわれています。

今回は同志社生協・青木真美理事長と、堂免裕子専務理事を訪ね、お話をうかがいました。

高取 同志社大学と同志社生協の概要についてお聞かせください。

堂免 1957年に同志社大学消費生活協同組合として設立され、97年に同志社女子大学などの事業が増え、同志社生活協同組合と改称しました。

青木 大学は、今出川と京田辺にキャンパスがあるので、2013年に、文学部、法学部、経済学部、商学部の1,2年生が京田辺から今出川に移ることにになり、8千人ほどが移動しました。そのため、大幅に今出川の収容人数が多

くなりました。生協も店舗を

組み替えたり、京田辺でも店舗のレイアウトを変えるなど、

当初は苦労しました。今出川では学生数が多くて、今でも昼食時の混雑の問題があります。食堂に近い教室をお昼休みに開放していただき、そこで食事をしてもらっています。

堂免 あとはテイクアウトメニューを増やしたりして、工夫をしています。逆に京田辺にはたくさんお店があったのですが、効率のいい運営をしないと赤字になりますので、

一旦そのタイミングで整理しました。私は今年度の総代会から専務理事に就いたので、以前から、教育研修はしっかりされているなと思っていました。生協の努力ももちろんありますが、事業連合が合併（事業統合時代含む）したことによる効果も大きく、飛躍的に経営改善が進みました。

高取 これからの課題をお聞かせください。

堂免 経営再建第二中期計画で成果を生みましたが、残された課題を実行にうつしたいと思っています。当面は、食堂では引き続き安定した利用ができること、購買のところはコンビニと競合しているかどうか差別化していくかが課題です。特にお昼休みに混雑するので、混雑緩和に力を入れていきます。電子マネーやテイクアウト、商品の品ぞろえの仕方にも工夫しています。なるべく早く買い物物がすませられる仕組み作りをし

ています。また、経営が悪化した当時は業績を回復するためにトップダウンが強かったようでしたが、今は緩やかに組合員参加を促し、主体的に組合員が参加する組織だということのを強めていきたいです。

生協とのかかわり

高取 青木理事長は2013年に就任されましたが、生協とのかかわりについてお聞かせください。

青木 私は商学部なのですが、商学部の先生方が何人か生協の理事をされていて、その方がたからのお声かけがあり、2011年に理事になりました。勧められた先生方は次期理事長の心づもりだったようです。前任の大鉢理事長が退任されて引き継ぎました。経験が無いので不安もありましたし、ちょうど同時期に入学センター長という入試の責任者にもなっていました。当初は生協にもご迷惑をおかけしたんじゃないかと思っています。

り、安部磯雄先生つながりというご縁も感じています。

元氣な学生たち

高取 ここ数年、生協の学生委員の活動が活発になってきたそうですが。

堂免 特徴的なのは新学期の新入生説明会です。新入生とその保護者のべ2千人以上の参加があり、大学生活や入学準備などを、学生自身がプレゼンテーションをおこないました。説明会は他にも複数回実施しました。また、いくつかチームがあり、お店の活動、広報誌作成、共済のチームなどが活動しています。

青木 学生委員会の人数がすごく増え、活動も活発になってきています。教職員との関係では、他の大学生協は教職員が企画を立てて活発に活動されているようなので、そんな風になつていけば良いと思っています。もう一つは教職員組合というのがあって、何か協力ができればいいと思っています。私も以前は教職員組合の幹事長をしていたので。

高取 学生委員は何人おら

れるのですか？

堂免 今出川で100人、

京田辺で30人くらいです。

青木 10年くらい前は10人ほどだったと…。

堂免 危機的な状態でしたが、少ない人数で続けているうちに、自分もそういう活動をしてみたいという学生が出てきて、出来るところから少しずつ活動してきました。説明会など活発になってくると、それを見てやってみたいという学生が増えてきました。

青木 これからは「モノを

売るのではなく、コトを重要視しよう」と思っています。



今出川キャンパス内の重要文化財「彰栄館」前で、
青木真美理事長（左）と堂免裕子専務理事

学生生活のさまざまなシーンで役立つ情報を提供し、学生と一緒に考えていくことを大事にしています。

堂免 この間も学生と話を

していて「推薦入学は決まったけどもっと早くに教習所の案内がもらえていたら、生協で申し込んだのに…」という会話があり、今作っている冊子のスケジュール、遅いんじゃないの？と気付くのです。そういうことをつなぎ合わせ、話し合いながら取り組んでいます。

高取 声から事業を組み立てるのは生協の原点ですね。

堂免 今はスマホ世代なので、キーボードが打てない、

パソコンが使えない子が増えています。メールもラインと同じような使い方と送ってくるなどがあるので、基礎的なパソコンの使い方を教える場が必要と実感しています。

青木 スマホで文章を作っ

て、それをそのままプリントアウトして…そうすると自分の名前もタイトルもないレポートが出てくるので、そこから教えないといけないんです。

高取 大学生協ではそこま

でサポートされるのですね。
青木 ある意味ではそれが、ビジネスチャンスです。存在価値が発揮できます。

堂免 学生委員会に入ってくる新入生は、一緒に活動する中で先輩だけでなく職員と関わることで、ノウハウが学べます。3年生になると就活などで忙しくなり、委員会としては蓄積していくのが難しいです。どこの大学も同じ状況だと思います。これからはいろいろな職員のとこでサポートしていかないとけないと思っています。

高取 職員も学生たちと一

緒に活動して、元気をもらうことがあるでしょうね。

堂免 卒業の頃には「立派になって…」と感慨深い思いになるようです。学生も生協の購買や食堂のパートさんと話すのを楽しみにしているようです。ちよつと保健室みたいな(笑)。

期待される生協へ

高取 食堂では100円朝食も取り組まれているということですが。

堂免 結構人気があります。

同志社大学では、毎週火曜日に実施していて、同志社の卒業生の団体である『同志社校友会』が財政負担をして実施しています。2016年度は年29回展開し、毎回150人の利用がありました。都道府県の特徴を出したメニューを出してほしいとの声もあり、メニューも工夫しています。100円朝食は同志社女子大学でも展開しており、同窓会や学生会の援助を得て、月々金毎日実施しています。

高取 今後の抱負や関心ごとをお聞かせください。

青木 累積の赤字は着実に

返済していければと考えています。学生の気質や、持っている資質や技能は以前と変わってきているので、そこをよく見極めて、例えば学生委員会の活動の中でうまく育ていきたいと思っています。学生生活に意義深いような情報等を提供できる生協になりたいと思っています。

高取 本日はお忙しい中をありがとうございました。

同志社生活協同組合

代 表 者／理 事 長：青木 真美
専務理事：堂免 裕子
所 在 地／京都市上京区烏丸今出川玄武町601
TEL.075-251-4430
事 業 高／46億9,790万円
組 合 員 数／4万1,432人
設立年月日／1957年11月18日

<http://www.doshisha-coop.com>

(※) 安部磯雄 (あべいそお、1865年3月1日生まれ)。日本の社会主義者。キリスト教の人道主義の立場から社会主義を活発に宣伝し、日本社会主義運動の先駆者であった。同志社大学教員の時に、同志社学生消費組合を設立。また、日本における野球の発展に貢献し、「日本野球の父」と呼ばれる。早稲田大学野球部創設者でもある。

京都府生協連 第25回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ

ユネスコ無形文化遺産登録と現代社会の課題および協同組合の役割

2017年10月17日(火)、
コープ御所南ビル会議室で開催し、役職員20人が参加しました。

「協同組合の思想と実践」
がユネスコ無形文化遺産に登録されました。世界や日本の協同組合の評価や、現在の社会情勢における協同組合の存在意義や価値・役割を、学ぶことを目的に開催しました。上掛利博会長理事が開会のあいさつをおこない、畑忠男副会長理事がコーディネーターをつとめました。



京都府生協連・
畑忠男副会長理事

立命館大学・二場邦彦名誉教授から「ユネスコ無形文化遺産登録と現在社会の課題および協同組合の役割」と題して講演がありました。

ユネスコ無形文化遺産登録にいたる国連の協同組合への評価では、生活に関わる多様な問題に市民が自発的・自主的に協同し解決に取り組む協同組合の価値が評価されました。



立命館大学・
二場邦彦名誉教授

た。そうした協同組合の価値をさらに高めるには、多様なくらしの現状を見据え、その課題に対応する取り組みが必要であり、そのためには、取り組む理念を明確化すること、組合員のニーズに対応できる職員の力量が望まれるなどの課題を提起されました。また、これからの生協の役割は「安全安心な商品」の提供から、「安全安心なくらし」の提供にあり、経済性や公共性だけでなく総合的に社会に役立つ道を進む必要があるとのお話があり、参加者との質疑や意見交換をおこない、交流を深めました。

参加者からは、「ユネスコ無形文化遺産に登録された経緯を知ることによって改めて協同組合の価値が理解できた」「理念と現状のギャップなど、多くの生協の共通の課題を考えるいい機会になった」などの感想がありました。

おもな行事のお知らせ

平成29年度 地方消費者フォーラム in おおさか

日時：2018年1月29日(月) 11:00～16:30
会場：新大阪丸ビル別館10階(10-1号)
テーマ：「ほんまはどうなん? 食品表示」

2017年度きょうと食の安心・安全フォーラム

日時：2018年1月30日(火) 13:15～16:00
会場：京の食文化ミュージアムあじわい館調理実習室
テーマ：「知ろう 食の安全、感じよう 食の安心」

ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会
学習講習会

日時：2018年2月10日(土) 14:00～16:00
会場：コープ・イン・京都

謹賀新年



旧年中はご支援・ご協力を賜り、ありがとうございました。本年も、みなさま方とごいっしょに、食の安全・くらしの安心をめざし、邁進してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇一八年 一月一日

京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛利博

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会 TEL 075 (251) 1551
URL: <http://www.kyotofu-seikyoren.com> E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp
〒604-0057 京都市中京区烏丸通二条上る時給屋町508番地 コープ御所南ビル4階